

Institute for Teaching and Learning





学生とともに進めるFD 第1回学生FDサミットを開催して

木野 茂 共通教育推進機構 教授

現在、大学教育改革のための大学の組織的な取り組みはFD (Faculty Development) と総称されていますが、FDは大学が統括的な責任を有し、実行面では第一に教員が、第二に職員が責任を有していると理解されています。しかし、FDが大学教育の改革を目標にするならば、そのもう一方の当事者である学生もFDと無関係ではないはずです。

本学ではこの学生とFDの関係について2006年度に検討する機会がありました。当時の大学教育開発・支援センターで「授業改善に向けた調査・検討ワーキング」が設置され、その委員として教職員だけでなく学生委員の参加を募ったところ、6名の学生が参加してくれたのです。このワーキングでは本学のFDの定義も定めましたが、その中に本

学のFD活動は「学生の参画を得て」行うことが明記されました。これが本学で学生FD活動を開始する契機となりました。

■ 学生 FD スタッフの活動

2007年度からは、学生の視点で教育や授業をより良いものにするための活動を行うスタッフとして、教育開発支援課が「学生FDスタッフ」を募集し、その活動を支援しています。私は2006年度のワーキング以来、学生たちの相談役を務めてきましたが、それからわずか3年で全国の大学に呼びかけて「学生FDサミット」を開催するまでに成長したことに正直驚いています。

CONTENTS

- P1 学生とともに進めるFD 第1回学生FDサミットを開催して
- P3
 学生FDサミット開催報告

 「学生FDサミット2010冬」開催!
- P4 第三者の意見紹介 学生FDスタッフの活動報告
- P5 山形大学·立命館大学 包括的協力協定に基づく学生交流 新任教員対象 実践的FDプログラム
- P6 全国私立大学FD連携フォーラムの取組紹介
- P7 2009年度後期Teaching Assistant 全体ガイダンスを実施しました 学部・研究科の教学的取組紹介
- P8 2009年度前期 授業アンケート結果公開のご案内 紀要『立命館高等教育研究』の原稿を募集しています(締切間近) 学外FDフォーラム探訪記

1

では簡単に、これまでに学生FDスタッフが取り組んできた活動を紹介します。

● 授業インタビュー

良い授業とは何かと言い出すと議論百出しかねませんが、視点を学生の方に移し、スタッフが印象に残った授業を紹介することにより、 学ぶ意欲を持つ学生たちがどんな授業を求めているのかを教員に 知ってもらおうという活動です。

スタッフが授業で印象に残ったことを教員へのQ&Aでインタ

ビューにまとめ、同時に教員から学生へのメッセージを聞き出すという活動は、教員に学生の本音を届け、授業について考えるヒントを伝え続ける点で、地道ではありますが学生が行うFD活動としてふさわしいのではないかと思います。

2007年度から1年分を冊子にして教員に配布していますが、2008年度からはWeb版も作り、教員だけでなく学生にも読んでもらえるようにしています。



2 しゃべり場

これは2008年度から始めた企画で、教育や授業に対する学生の本音や意見を、スタッフ以外の一般学生も含めて幅広く集め、教学改善に反映していこうという活動です。

たとえば「講義が面白いと思った瞬間」というテーマで行ったときには、教員と学生とのコミュニケーションが取れている授業という意見が多く出されましたが、授業コミュニケーションを活発にしたいというのは大学側の方針とも一致しており、学生の本音を聞くことの意義を再確認しました。

この「しゃべり場」は、後で紹介する「学生FDサミット」の中心的な企画として発展しています。

3 体験オフィスツアー

これは2009年度から始めた企画で、スタッフからの「学生なのに研究室に行く機会がないなんて」という声を受けて、スタッフが一般学生に呼びかけて一緒に教員の研究室を訪問しようというものです。専門分野だけでなく、教員の考え方などについても、いろんな質問をすることができるチャンスでもあり、まだ前期に2人の先生の協力を得て始めたばかりですが、参加者の評判はとても良いようです。

4 学生の視点からの意見表明

立命館大学ではFD活動を学生の参画を得て行うと定めましたので、 教育開発推進機構が開催する教育実践フォーラムで授業アンケート や授業改善をテーマにするときには必ず学生FDスタッフに学生の視 点から意見表明を行ってもらい、議論に加わってもらっています。

授業アンケートのテーマのときには、学生から見るとアンケートの 目的がよくわからないとの意見が多く出されるなど、今後の課題を考 える際の参考になる学生視点を出してもらっています。

6 他大学との交流

教育改革やFDが先行した旧国立大学ではFD活動への学生参加についてもいくつかの先行例がありますが、なかでも活発なのは岡山大学です。同大学の学生・教職員教育改善委員会が毎年行っている学生交流ワークショップには本学のスタッフも2006年度から毎年参加

し、他大学の学生たちとの交流を深めてきました。

2008年度からは山形大学と本学の包括的協力協定にもとづき、両大学の学生交流も始まりましたので、授業改善のテーマには学生FD スタッフからも積極的に参加しています。

学生FDスタッフのWeb開設

これらの学生FDスタッフの活動を学内外に広く知ってもらうため、2008年10月に「FDS Report」のWebページを開設しました。授業インタビューやしゃべり場、他大学交流、スタッフ紹介などを掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。



■ 第1回学生FDサミットの開催

前述の山形大学との学生交流に参加したスタッフたちは、2008年12月の両大学の学長への成果報告会で学生FDを全国に広めるため、「学生FDサミット」の開催を提案しました。この提案は川口学長をはじめ学内からも支持され、また2009年3月に行われた大学コンソーシアム京都のFDフォーラムでも他大学の参加者から実現への強い期待が寄せられました。

こうして2009年8月29・30日に衣笠キャンパスで「学生FDサミット・2009夏~大学を変える、学生が変える~」を開催しましたが、スタッフと機構の予想を上回る26大学・機関から100名に上る参加者がありました。学生と教職員の割合もほぼ半々で、学生とともに進めるFDにふさわしい参加者構成でした。

今回のプログラムは表1の通りで、少人数の学生と教職員が一緒に話し合う「しゃべり場」を中心に企画しました。最初に15の多彩なテーマで「しゃべり場petit」を実施し、その後、参加者の希望順で8テーマ(表2)に絞り、「しゃべり場」本番を行いました。このうち、最も希望の多かったのが「学生・教員・職員が協力して良い大学を作るには?」だったことは印象的でした。

参加者アンケート(主催者を除く)によれば、今回の企画内容への満足度は88%に達し、2010年2月20・21日に本学で開催予定の第2回学生FDサミットへの参加希望者も84%に達しました。

この企画の過程で各大学との交流の輪もさらに広がっています。6 月には私と学生FDスタッフが追手門学院大学に招かれましたが、12 月には法政大学からも招かれています。また、2009夏を契機に 2010冬のサミットに向けて学生FDの取り組みを始めた大学もすで にいくつかあります。

本学の学生FDスタッフたちが始めた学生FDサミットの今後の展望 はかなり明るくなったのではと期待しています。



表1 「学生FDサミット・2009夏」 のプログラム

8月29日	オープニング(開会宣言、参加者全員紹介、他)		
	しゃべり場petit (15テーマ) 「大学を超えて立場を超えて交流を」		
	しゃべり場petitの報告		
	しゃべり場 (8テーマ・9グループ) 「学生FDでできること、したいこと」		
	しゃべり場の報告		
	大学問「学生FD」 交流グループワーク		
8月30日	グループ・個人による全員発表		
	「各大学でこれからやりたいこと、やれること」		
	エンディング (学生FDサミット2010冬に向けて)		

表2 しゃべり場のテーマ

- ■ヘンな授業の改善法
- 授業アンケートって必要? 何のため?
- ■高校生から大学生へ一初年次教育を考える一
- 大学で学生が身につけるべき力とは?
- ■「大卒」って何? -大学教育の質保証-
- 学生・教員・職員が協力して良い大学を作るには?
- 都市の大学、地方の大学、 それぞれのデメリットをメリットに変えるには?
- ■障害の有無にかかわらず大学で学ぶためどのような環境が必要か?

学生 FD サミット開催報告

学生FDサミット2009夏を開催して

平野優貴 学生FDスタッフ 政策科学部4回生

「より多くの方々と『壁を越える』経験をしたい」という想いから 生まれた学生FDサミットの第1回を開催することができました。 開催に向けてお世話になった皆様、そして26大学100名にも上 る参加者の皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

グループで参加してくださった大学を中心に教職員の方々や学生のみなさんと大学を超えて立場を超えての交流を深められたり新たな交流が生まれたりしたのは学生FDスタッフにとっても大きな収穫でした。

一方でこのような大規模なイベントを開催することの難しさも 痛感しました。学外の方にも参加していただくということはより多 様な理念・価値観・目標が交わることになります。企画の意図を 的確に伝え、理解していただくのは非常に困難ですが、この努力 無くしてより有意義なものにしていくのは不可能です。2010年冬 開催予定の次回も、また私の卒業後も、成長し続ける学生FDサ ミットであってほしいと思います。



今回のFDサミットに関して

山西 悠祐 学生FDスタッフ 産業社会学部4回生

学生FDサミットを終えて、まず感じたのは、大学教育というものを真剣に考えている人たちがこれだけ沢山いるのかという事であった。

私はFDサミットを運営するスタッフとして、参加者と共にサミットを進めてきたが、しゃべり場などの意見を言う場で感じたのは、それぞれの大学が抱える問題は一つひとつ異なると言うこと。そしてこのサミットで皆が他大学の意見に触れ、自分なりの考えを見つけて帰って行ったことは、このサミットの目的でもあり、喜ばしいことだと思う。

FDサミットを構築するにあたって、「継続性」というものを一つの柱にしていた。それはサミットは1度だけではなく、今後、冬に行うことで継続的にこの波を広げていこうということである。今回のサミットは私たちが考え、構築したものであるが、今後、変わっていくスタッフによってその内容というのも変化していくであろう。これを考慮すると、今回のサミットは大きな一歩であると感じた。



「学生FDサミット2010冬」開催!

「学生FDサミット2010冬」では、2009年度の夏から冬にかけてのFD活動の成果報告会や、夏でも好評であった「しゃべり場」を実施する予定です。是非ご参加ください。

日時 2010年2月20日(土)、21日(日)(予定) 場所 立命館大学 衣笠キャンパス

※詳細につきましては、決定次第、学生FDスタッフのページに順次公開していきます。

▶ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/itl_fd/index.html

第三者の 🦠 意見紹介 🚁

学生FDスタッフの活躍

梅村 修 追手門学院大学教育研究所 所長

今年の春先のことであった。龍谷大学・深草学舎で、大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムが開催された。何の気なしに参加した2日目の分科会で、私は衝撃的な出会いを体験したのである。彼の名前を平野優貴くんという。立命館大学の3回生であった。聞けば平野君は、立命館の「学生FDスタッフ」の中核メンバーで、木野茂先生のご指導のもと、学生の目線で大学の教学改革を押し進める試みをしているという。その巧みな弁舌、物怖じしない態度、それでいて慎み深い発言、私は立場を忘れてすっかり魅了された。いまどきこんな意欲あふれた好青年がいるのか…。私は立命館大学にちょっと嫉妬した。

フォーラムがはねた後のことだ。気がつけば、私は彼の隣りににじり寄り、スターにサインをねだるファンのように、「どうか私の大学に来て、学生FDスタッフの活動を紹介してくれませんか」と頼み込んでいたのである。

6月3日のことだ。平野君は追手門学院大学の春のセミナーに来てくれた。ときあたかもインフルエンザ禍の最中だったにもかかわらず、

仲間を伴って素晴らしいプレゼンテーションをしてくれた。さらにうれしいことに、平野君たちの話を聞いていた追手門学院大学の学生の中から、「俺たちも学生FDというのをやってみたい」と声が上がったのである。信じられない思いだった。でも一つ賭けてみようと思った。学



生によるFD活動は、教職員だけの自己満足に陥りがちなFDに、かならずや喝を入れてくれるに違いない。そう確信したのである。

現在、追手門学院大学では、12名の学生FDスタッフが、毎週1回、定例会議を開き、学生発案のFD活動計画を練り上げ、少しずつ成果を積み上げている。教員と学生が大学での学びについて率直に語り合う「しゃべり場」の開催、面白い授業を展開する教員へのインタビュー、キャンパスライフ・アンケートの作成、学生FDサミットへの参加などだ。まだまだ立命館の猿まねの域を出ないが、学生たちは意気盛んである。いつか本家の立命館・学生FDスタッフをあっと言わせるような活動をしてみたい。平野君に負けてはいられないのだ。

報告

学生FDスタッフの活動報告 一岡山大学での学生交流一



2009年9月22日、23日に岡山大学で第6回教育改善学生交流(i*see2009)がされ、本学から学生FDスタッフ4名と教職員2名が参加しました。今回のテーマは、1日目が「学生主体の教育改善活動について」と題して、参加学生による「学生川柳の作成」や、4大学(大分大学、岡山大学、札幌大学、立命館大学)の学生による「学生が関わるFDの取り組み紹介」の報告がありました。

2日目は「職員が参加する教育改善活動について」でした。学生にとっては、職員がどの様な役割を担っているかが分かりづらいために、グループディスカッションの前に2大学(同志社大学、立教大学)の職員による講演が用意されていました。参加したグループのディスカッションの方向性として、職員が参画するFDの推進の前提であるSD(Staff Development)の話が中心となりました。

i*See2009に参加して

鈴木 裕太 学生FDスタッフ 法学部2回生

1日目の始めに、学生が川柳にのせて大学生活に対する本音を書きました。 川柳は学生同士が共感し合うものや初めて聞く意見など、学生が思って いることは様々で、議論ではない新たな形で意見交換が出来る場でした。

2日目では立教大学と同志社大学の職員による講演があり、講演内容は どちらも職員の教育改善活動で、立命館大学の教育活動しか見たことがな かった私にとって、他大学の教育活動は興味深いものでした。

その後、他大学の方と意見を交わすグループワークを行いました。

ここで私が一番印象に残ったことは、「国立と私立の違い」で、授業ガイダンスや事務室の在り方は大学ごとに違い、自分の大学のイメージは立命館大学だけしかなかったことに気付かされました。

横江 利優 学生FD スタッフ 経営学部 2回生

私は1日目に開かれたシンポジウムでシンポジストとしてFDスタッフの 活動を紹介しました。学生が進めるFDについて興味を持っていただき、 また自大学でどうしたら学生を巻き込んだFDが展開できるか真剣に考えてくださる教職員の方が多く、学生FDの注目度の高さを実感しました。しかし、その一方で学生からの質問はシンポジウム全体を通じて少数であったので、FDという考え方自体をもっと身近なものとして考えてもらえるように幅広く伝えていく必要があると改めて実感しました。

今回のイベントを通して学生・教職員分け隔てなく様々な考えを持った 人たちと出会うことができたのは、自分自身や自分の考えを見つめなおす 良い機会となりました。FDスタッフとしても一学生としても、夏を締めく くる学び多き2日間でした。





山形大学・立命館大学 包括的協力協定に基づく学生交流

本学では、2008年度に「山形大学・立命館大学包括的協力協定」を締結し「学習者中心の大学づくり」の推進につながる取り組みを行っており、2009年度は、学長同士の交流や、教員、職員、学生同士でそれぞれ交流を行っています。

今年の学生交流は、募集・選考し構成された5名の交流学生で取り組みを行っています。具体的な取り組みとして、8月29日、30日の2日間に渡り開催された「学生FDサミット2009夏」への参加や、9月12日から14日にかけて山形に訪問して、山形大学が今年試行的に実施している「最上川学教育プログラム」に参画し、山形大学の学生8名と交流を行いました。

最上川学教育プログラムは、最上川流域の農山漁村と連携して

共に学びあう体験的教育プログラムで、訪問した際には、市民活動団体や漁業組合などの現地の方々が講師としてお越しくださり、自然と文化、流域に暮らす人々の知恵と技術をテーマに、歴史的背景を踏まえながら、新たな暮らしや産業のスタイルなどの在り方について講話を頂きました。その他、フィールドワークでは、松尾芭蕉が下った最上川舟運の要衝の文化に触れたり、ワークショップでは、地域の再生や地域力向上に貢献する大学のあり方などを考察しました。

学生交流では、これらの貴重な体験を通して得られた成果を報告する場として、12月5日に、東京にて「成果報告会」を実施し、交流学生が両大学の学長にプレゼンテーションを行う予定です。

新任教員対象 実践的FDプログラム

「夏期集中プログラム」開催報告

9月17日・18日に渡り、本学に今年度着任された先生方を対象とした実践的FDプログラムの夏期集中プログラムを開催しました。本プログラムは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力の修得を目的としています。夏期集中プログラムでは、授業設計に関する講義を受講した後、実際に授業設計を行ないピアレビューすることにより、授業に対する理解を深めるとともに実践力を養いました。



9月17日						
9:00	開催挨拶	挨拶 #5 #5 2.5 0		教育開発推進機構教授		
9:05	講義「授業設計論論 I 」					
10:00	移動、休憩 敬学館252~255、262・263		沖 裕貴	教育開発推進機構教授		
10:10	ワークショップ「授業設計論演習Ⅰ」	₩子組232~233、262・263				
12:00	SNSの利用ガイダンス	敬学館 250	宮浦 崇	教育開発推進機構講師		
12:10	移動					
12:20	昼食懇談会					
13:40	ワークショップ「授業設計論演習Ⅱ」	敬学館 250				
14:00	移動、休憩		井上 史子	教育開発推進機構講師		
14:10	グループワーク	奴子貼 204、205、200				
15:50	移動、休憩	^{木憩} 敬学館 250		教育開発推進機構講師		
16:00	ティーチング・ポートフォリオの利用ガイダンス	双子居230	加藤 善子	※ 月 用 光 雅 进 版 件 碑 即		
17:00	終了					
9月18日						
9:00	ワークショップ「授業設計論演習Ⅲ」	敬学館 250				
10:00	移動、休憩			教育開発推進機構講師		
10:10	グループワーク 敬学館252~255、262・263		井上 史子			
11:50	プログラム評価アンケート					
12:00	終了					





※役職は当時のまま

夏期集中プログラムで行なった講義ならびにワークショップの概要は、以下の通りです。

テーマ

野授業設計論Ⅰ(講義)

大学の授業の設計

到達目標 ① カリキュラムや授業の設計において、学習成果を明確にし、 適切に到達目標(行動計画)を設定することができる(知識、技能)

② カリキュラムや授業の設計において、 適切な評価の観点と方法を選ぶことができる(知識、技能)

分 野 テーマ

野 授業設計論演習 I (ワークショップ) マシラバスと授業の到達目標の書き方

シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる(技能)

カ 野 テーマ

野 授業設計論演習Ⅱ(ワークショップ)

強制連結法による授業設計

強制連結法を用いて授業を設計できる(技能)

分 野 テーマ 到達目標

授業設計論演習Ⅲ (ワークショップ) マイクロティーチングと評価

到達目標 ① 強制連結法を用いて設計した授業を実施、 相互評価することができる(技能)

② 公開授業等において、授業評価を行なう際に求められる観点を知り、 適切な評価を行なうことができる(技能、態度)

全国私立大学FD連携フォーラムの取組紹介

学生の規模や多様性といった共通の課題を抱える比較的規模の大きな私立大学が、教育改善を目指して連携する「全国私立大学FD連携フォーラム」を昨年度12月に設立し、活動を進めています。現在の参加校は、慶應義塾大学、早稲田大学、中央大学、法政大学、明治大学、立教大学、同志社大学、関西大学、関西学院大学、青山学院大学、神奈川大学、芝浦工業大学、名城大学、甲南大学、京都産業大学、東北学院大学、東京農業大学、立命館大学(順不同)の18大学となっています。

◆ 教育 GP 中間報告会 盛会に終わる

沖 裕貴 日本教育情報学会年会実行委員長兼教育GP取組責任者(教育開発推進機構教授)

8月22日、23日の両日、日本教育情報学会の協力を得て、本学 朱雀キャンパスで教育GP中間報告会が開催されました。学会関係 者を除き、全国71大学・機関から150名を超える参加をいただき、 学会参加者を併せると約350名近くが集う盛会となりました。また、 22日の夜、全日空ホテルで開催された懇親会にも、120名以上の学 会関係者とGP参加者が仲良く参加し、交流と教育論議に花が咲き ました。

今回の日本教育情報学会との合同イベントでは、当初の予想を大きく超えた相乗効果が発揮されました。これまで初等中等教育と高等教育の間には大きな「壁」があるように思われてきましたが、教育



の質保証の問題やFD・ 教員研修の方法論、そし て多様な学力や学習意 欲を持つ学生・生徒や発 達障害を抱える学生・生 徒への対応の問題などに 関して、私たちは基本的 に同じ教育指導上の課 題を持ち、同じ学術的な基盤を 持って議論することが可能だと いうことが双方の関係者に認識 されました。また、GPの報告会 や学会の運営にとっても、関連 する学会がコラボレートするこ



とによって、異なる視点からのアプローチが得られたり、初等中等 教育から高等教育を俯瞰した広い視野からの分析や連携が可能にな るなど、新しい展開が創造される可能性が示唆されたのではないか と考えます。

来年度は教育GPの最終年度にあたり、成果報告会を催すことになります。これまでに開発された実践的FDプログラムの紹介や活用の状況をはじめ、新任教員に求められる職能に関する基準枠組みの提案など、3年間の成果を総括する大きな報告会になろうかと思います。全国私立大学FD連携フォーラムの会員校ならびに今回ご参集いただいた皆様には、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう心よりお願いいたします。また、今年度ご参加いただいた皆様には、紙面を借りて衷心より御礼申し上げます。

◆ ファカルティ・ディベロッパー養成プログラム

9月には、全国私立大学FD連携フォーラムの取組の一環として「第2回 ファカルティ・ディベロッパー養成プログラム」を関東ならびに関西の2会場で開催しました。

※ファカルティ・ディベロッパー(以下、FDer)とは、各組織において中心的に FD活動を担い、当該組織に所属する各教員や組織そのものが教育活動において抱える課題を分析・改善し、組織的教育力を高めることができる環境を整備する人材です。

関西会場

日時:9月8日(火)14:00~16:00

場所:同志社大学 今出川キャンパス 至誠館3番教室

関東会場

日時:9月24日(木)14:00~16:00

場所:中央大学後楽園キャンパス新3号館10階大会議室

■ 講座名称

教育方法論演習 ||

■テーマ

良い授業のための留意点(話し言葉に着目して)一図形並べ一

■ 到達目標

- ①自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを体験する(知識)
- ②フィードバック (質問、聞き直し) がある場合とない場合で、 どの程度口頭による指示の伝達が異なるかを体験する (知識)
- ③教員が得意とする言語情報 (verbal communication) の限界 を体験する (知識、技能)

当日は、自分の伝えたい内容がどの程度口頭で的確に伝達されるかを体験するワークショップを行いました。一方向コミュニケーションと双方向コミュニケーションで、情報伝達の正確さやかかる時間にどのような差異が生じるか、参加者は身をもって体験することにより、言語情報 (verbal communication) の限界を知り、授業での話し方について考察しました。

将来的には、本プログラム修了者がFDerとして各大学においてFDを推進する役割を担うとともに、受講者同士のネットワークを形成することにより、大学間を越えたFDerの継続的・発展的な協力体制を構築することを目指しています。

2009年度後期

Teaching Assistant 全体ガイダンスを実施しました

2009年9月16日びわこ・くさつキャンパス/2009年9月17日衣笠キャンパス

ガイダンスの模様

2009年度前期に続き、TAの業務を担う大学院生を対象とした「2009年度後期 TA全体ガイダンス」を、びわこ・くさつ、衣笠の両キャンパスでそれぞれ一日ずつ実施しました。

2009年度前期のガイダンス時に寄せられた内容に関する要望を反映し、今回のガイダンスでは、毎回実施している「TA制度の趣旨・やりがい」「昨今の学生実態」「TAガイドライン」についての講義・説明に加えて、情報教室において、「教室利用」「Web-CTの利用」についての実演を交えた説明を実施しました。今回は、後期開催ということもあり、参加者のほとんどが既にTAとしての実務経験を持った大学院生でしたが、当日のアンケート回答では、TAについての制度、実務両面から理解の促進に役立ったという評価を多く得ることができました。

研修制度の充実に向けて

2008年度から開始されたTA対象の研修実施も2年目を迎え、参加者の意見・要望を取り入れながら、本学教学とTA個人の力量向上の双方に資する、より充実した内容となってきました。今後も、日々TAとして業務に向かう際に有用な知識、技術、そして心構えを身に付けていただけるよう、様々な研修を実施していきたいと考えています。TAの皆さんの積極的な参加を期待しています。

参加者の声

- ▶ TAは受け身の姿勢での仕事であると考えていましたが、TAあっての大学での講義という話を聞き、責任とやりがいを感じました。また、大学とTAとの雇用関係がしっかりしており、明確にガイドラインが定められており、安心して働ける環境があることを知ることができてよかったです。
- ▶ 学内教育 (制度) の中でのTAの位置付けが良くわかりました。講師の先生がおっしゃったように、"教育に関するすべての構成員が働きかけて"現場を良くしていけたらと思います。自分もTAとしてその一端を担いながら努力したいと思います。





学部・研究科の教学的取組紹介

経営学部GBL型「プロジェクト研究(海外企業企画型)」の試み

八重樫 文 経営学部 准教授

この授業は、海外実習 (Business Studies Abroad II:インターンシップ型) の受入先 (Cross Culture Holdings Ltd.:イギリス/ロンドン:総合メディアプロデュース会社) でもある客員教授:松任谷先生と共に、Web会議ツールを利用して、毎週プロジェクトの進行についてディスカッションを行いながら進めています。ここで学生に学び、身につけてもらいたいものは、「社会のプロデュース能力」です。教科書を頭にたたきこみ試験で再現することや、体裁だけ整った絵空事の企画書作成や、身内しか参加しない場でのプレゼンなどのような「教室の中でのデキゴト」ではそれは身につきません。

これまでの本授業での学生の活動成果に次のようなものがあります。
①2008年、英日の学生が映像制作を通して文化交流を目指す「英日合作映像プロジェクト」が立ち上がり、英国大使館主催UK-Japan2008へのイベント参加申請のため、英国大使館へプレゼンを行い、公式イベントとして受理された。②プロジェクトの予算獲得のため、国際交流基金等への申請や企業への協賛依頼・交渉を行い、数企業から協賛・協力・後援を獲得した。③映像制作へ向けた英日映像制作担当組織の選定と交

渉を行い、京都造形芸術大学とロンドンカレッジ・オブ・コミュニケーション (LCC) が制作チームとして決定された。④プレスリリースを各方面に行い、地元新聞・テレビ局に取り上げられた。⑤2008年秋に立命館大学学園祭において、アーティストやラジオDJらをゲストに迎え、映像完成披露上映会が開催された。⑥2009年には映像DVDの配布や、ロンドンでの上映会が行われる。

現在でも4チーム・20数名ほどの学生が、「日本の若者が原爆の悲惨さを世界にアピールする」「日英学生映画祭」「国際少年サッカー大会」「京都学生ファッション・スタイリング選手権」といった各々が発案したプロジェクトを実現するために、多方面に協力を募り、交渉のために走り回っています。

学びの枠を小さく限定せず、そこで行われることが、現実の社会に接合し、確かな「現実の手ごたえ」を感じられるようになる、そんな授業にしたい。これは担当教員だけの思いではなく、この授業に参加している学生たちといつも話していることであり、この授業がこれからも挑戦していくことです。

2009年度前期 授業アンケート結果公開のご案内

学部事務室、図書館、教育開発支援課の各窓口で2009年度前期授業アンケート結果を公開していますので、ご覧ください。

公開内容

- ・授業アンケート報告書
- ・コメント付結果冊子
- ・結果個票 (Web コースツール)





※写真は2008年度後期 授業アンケートの報告書です。

紀要『立命館高等教育研究』の原稿を募集しています(締切間近)

教育開発推進機構では、学園内の組織ならびに個々の教職員の教育に関する研究成果などを収集・蓄積・発信することにより、組織的なFD活動、SD活動の進展を目指して、『立命館高等教育研究』を発行しています。

第10号の募集要項は下記の通りです。投稿ご希望の方には、「執筆要領」、「投稿規程」、「投稿申込書」を送付しますので、教育開発支援課までご連絡下さい。また教育開発推進機構のホームページからもダウンロードしていただけます。皆様からのご応募をお待ちしています。

応募資格 立命館学園の教職員

掲載内容 立命館学園をはじめとした大学や教育機関の教育や教育実践に関する論文および報告

字 数 論文、実践研究、報告ともに20,000字以内

※上記字数には本文・注・図表・参考文献等を含む。

※1頁:42字×39行

応募方法 投稿申込書」に必要事項を記入の上、事前に教育開発推進機構事務局(教育開発支援課)に提出

提出方法 原稿は印刷物とCD-R等のデジタルデータで提出 **原稿締切日** 2009年11月30日(月)※当日消印有効

発行(予定) 2010年3月31日(水)

留意事項 投稿の際には「執筆要領」、「投稿規程」を必ずご参照下さい。



■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 学外 FD フォーラム探訪記 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

日本教育工学会第25回全国大会

9月19日(土)~9月21日(祝)の3日間、東京大学にて行われた日本教育工学会第25回全国大会に参加しました。本学会では中期的な重点研究として①新しいICT・教育システムの開発に関する研究、②高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究、③教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究を定め、課題研究や研究会のテーマを設定してきました。

今回のプログラムの中で特に印象に残ったのは、「変革をささえる教育工学:サスティナビリティとスケーラビリティ」と題したシンポジウムで、研究成果の持続と普及についての意見交換を行いました。特に、愛媛大学の佐藤先生が提起された、研究者・実践者の間に、普及者という存在を立てる必要があるのではないかという意見には感銘を受けました。 (小野)

日本私立大学連盟「自己改革システム習得プログラム」

8月31(月)~9月2日(水)の3日間に亘り、日本私立大学連盟主催の「自己改革システム修得プログラム」に参加しました。同プログラムは、政策企画・立案に中心的な立場や、マネジメントサイクルの構築や自己点検・評価活動に携わっている(関心がある)、同連盟加盟大学の教職員を対象に実施され、各大学副学長、学(副)部長等役職者や教学部門に限らない様々な部門の教職員が参加しました。

同プログラムの目的は、私立大学が高等教育環境の目まぐるしい変化に 即した自立的・永続的な改革を実践し実効あるものにするため、その担い 手である教職員に大学改革のマネジメントサイクルを構築する手法を実践 的に修得させることと、修得した手法を大学の改革現場において日々稼動させることです。研修内容は、グループワークを中心とし、議論と作業を通じてこれまでの大学改革・教学改善の手法の思考を根本的に問い直す、まさに「自己改革」を体験する大変有意義なものでした。

同プログラムは毎年夏期に開催され、今年は東京と大阪の2会場・日程で、本学からは6名の教職員が研修者として参加しました。次年度以降も多くの教職員の方々に参加をお薦めしたいと同時に、学内における同プログラムに類する研修の取組を教学改善支援の一環として検討したいと考えます。 (吉岡)



立命館大学 教育開発推進機構 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

◎TEL:075-465-8304(内線:511-7141) ◎FAX:075-465-8318(内線:511-7149)

@e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp